

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1473400487
法人名	医療法人 桜城会
事業所名	グループホーム友愛
訪問調査日	平成29年1月6日
評価確定日	平成29年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400487	事業の開始年月日	平成16年8月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	医療法人桜城会			
事業所名	グループホーム友愛			
所在地	( 246-0037 ) 横浜市瀬谷区橋戸3-26-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="radio"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の能力と自主性を重んじ、家庭的な雰囲気のホームです。
------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年1月6日	評価機関 評価決定日	平成29年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の経営母体は医療法人桜城会です。同法人は、ここ「グループホーム友愛」の他に、歯科「友愛歯科クリニック」を桜ヶ丘で運営しています。グループホーム友愛は1ユニット9名の少人数で、建物はクリーム色を基調とした平屋建ての造りになっています。開設時から同町内で経営していましたが、防災設備設置の関係で前所在地から約100m程離れた現住所に移転しました。移転後も前自治会の行事にも参加させてもらいながら、現自治会の行事にも参加する等、地域の方々に周知され良好な関係が確立されている事業所です。立地は、相鉄線「瀬谷駅」南口より徒歩15分程の厚木街道から1本中に入った住宅地の一角に位置し、すぐ目の前には橋戸公園があり、炊き出し等の自治会行事も行われている他、日中は子供達の遊び声が聞こえる環境の中にあり、利用者の楽しみにもなっています。

●事業所の特色の1つとして、職員の勤続年数が7年以上と定着率が高く、職員間は勿論のこと、利用者や家族とのコミュニケーションも良好で、意思の疎通が来ており、職員同士もお互いフォローし合いながら家庭的な雰囲気の下、利用者へのケアサービスを提供しています。また、排泄支援ではオムツの使用を減らす為の取り組みの一つとして、必ず2時間以内に声かけや誘導をすることを徹底しています。例えば認知症が進行しても、重度化が進んで自身で意思表示や言葉で伝えることができなくなっても、感覚は失われるものではないと考えており、利用者が不快な思いを感じることなく快適な生活に繋がられるようにトイレで排泄してもらうことを大切にしながら排泄支援を行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム友愛
ユニット名	グループホーム友愛

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほぼ理念どうりのホームだと思う。	事業所の理念「家庭的な雰囲気・人情の尊重・自立のお手伝い」を玄関に掲示しています。勤続年数の長い職員が多く、職員に浸透しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前が公園なので地域の方や子供がいつでも来れるようにしている。	前自治会の行事にも継続して参加している他、現自治会にも加入しています。事業所の目の前にある公園でお祭りや炊き出し等の行事が行われる為、お祭りの時にはフランクフルトやラムネの模擬店を出店しています。また、日頃から近所の方がお茶を飲みに来たり、地域貢献活動としてこども110番の協力を呼びかける等積極的に働きかけています。ボランティアではフラダンスや歌の方が来てくれています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	祭りや行事には積極的に参加してグループホームを知らない方にアピールしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防火活動や洪水対策計画の作成に当たり地域の方の意見を取り入れた。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員、自治会長、家族、事業所関係者で事業所の現状・活動報告、地域行事の情報等について話し合いを行っています。事業所での防火活動や洪水対策計画に、メンバーの方からのアドバイスや助言も取り入れています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	洪水計画書作成に当たり不備な点や地域の情報提供していただいた。	市の担当者とは生活保護受給者の受け入れも行っている関係で必要に応じて連絡を取り合ったり、書類提出や困難事例等が発生した場合に相談に乗っていただいています。横浜市のグループホーム連絡会にも参加し、旭・瀬谷ブロックの分科会で他事業所とも情報交換を行っています。介護相談員の訪問も毎月あります。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない。職員全員承知し長く勤務しているので爆発しない様な方法を熟知している。	身体拘束については、外部の研修会や事業所内でも事例を挙げながら、意見を出し合いながら理解を深め、全職員が統一した対応が出来るように取り組んでいます。勤続年数の長い職員が多く、スピーチロックも含めて切迫性・非代替性・一時性の3原則について正しい知識を身につけており、拘束を行わないケアを徹底しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村の講習や研修に積極的に参加し防止の意識を高めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてその様にしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や関係者と納得して頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じてその様にしている。	現在は、生活保護受給者の方が多く、家族と縁の薄い方が多い為、家族の面会は一部の方々に限られています。面会に来られた際には、日頃の生活の様子を伝えると共に意見・要望を伺っています。家族からの意見・要望については、会議で検討した後に運営に反映させるように努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回自由な発言が出るような会議を行っている。	毎月の職員会議の場以外でも、日頃から職員とのコミュニケーションを図り、職員から意見等を聞いています。職員の勤続年数も長く、管理者と職員間の人間関係も良好で、自由に忌憚の無い意見が言える風通しの良い職場環境になっています。管理者は職員の自主性を尊重することで、職員の意欲向上に繋げています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	順法精神にのっとりその様に勤めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会や資格取得に優遇制度を設けその様に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で管理者のネットワークを作り困った時に大いに活用している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談員等を利用し本人の意見聞きだすとかいいにくいことを聞くよう耳を傾けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その様にしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気関係を深めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭的な雰囲気関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家庭的な雰囲気関係を深めている。	入居時に本人がこれまで大切にしてきた場所や人との交友関係について把握し、馴染みの関係を継続出来るように努めています。年1回の地域のお祭りに参加した際に、以前交友があった方との再会や手紙のやり取りしている方もいます。年々、馴染の関係継続の支援は難しくなっていますが、個別対応で馴染みの関係が継続出来るように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友達より家族的に各人の部屋に行き来し孤立しないような雰囲気です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その様になっている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その様なケアをしている。	入居時のアセスメントでこれまでの生活歴、暮らし方の希望や意向を伺いアセスメントシートに記録し情報を共有しています。入居後は、入居時と思いや意向にズレが生じることもあるので、日々の会話や本人が発した言葉を記録に残し、本人本位に検討し、利用者の今の思いに沿えるような支援を心がけています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その様なケアをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その様なケアをしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その様なケアをしている。またその様な会議も行っている。	計画作成者が作成した原案を基に、ケア会議で日誌や個人記録、職員の気づきを参考にしながら職員で話し合い現状に即した介護計画を作成しています。個別の担当は決めていませんが、行政から若年性認知症の方については担当職員を決めるようにとの指導があった為に決めています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その様な介護をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その様な介護をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その様な介護をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その様な体制『医療連携』をとっている。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、かかりつけ医での受診を希望する方は家族対応での往診をお願いしています。現在は全員が事業所の協力医療機関による往診を月2回受けています。歯科は同法人の友愛歯科クリニックから口腔ケアと治療があります。精神科については、継続して以前からの専門医での受診しています。看護師は週1回の訪問で、利用者の健康管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その様な体制『医療連携』をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その様な体制『医療連携』をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その様な体制『医療連携』をとっている。	契約時に重度化や終末期に関する指針を説明しています。医療行為を必要とする方に関しては、家族と相談して医療機関や特別養護老人ホームを提案していますが、事業所では条件を整えば看取りに介護を行う、方針です。医師から終末期の話があった際は家族との話し合いの場を設け、今後の方針を決め、家族の意向に沿った支援を心がけています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常にその様な状態を予測した訓練も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	洪水対策、防火訓練でその様にしている。	火災・地震の他、洪水等の自然災害も想定して年3回の避難訓練を実施しています。境川の氾濫も考えられることから、新たに洪水対策計画を立て消防署に提出しました。事業所内の訓練だけでなく、地域の防災訓練にも参加し、地域における役割と災害時に対する意識を高めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その様な理念にしている。	事業所の理念にも「人情の尊重」を掲げており、利用者と接する時には自分の両親と接する対応するよう心掛けるように職員に徹底しています。職員の勤続年数も長く、利用者との慣れあいにならないよう言葉遣いにも留意しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人別の買い物日を決め時々その修練をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい時間を過ごされるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その様にしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その様にしている	食材は生協で注文し、メニューは自前で考えています。食事は生活の中の楽しみの一つであることから、食材の産地にもこだわって発注をかけています。個々によって味付けの好み等も違ってきますので、一人ひとりの好みの味付け、形状、固さを把握して食事を提供しています。全員での外食支援は人間的にも厳しいので、職員と1対1で外食に行き、好きな物を食べてもらうようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週の献立を職員で決めその様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自分で、そうでない方は支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツは使わないように事前に時間で誘導している。	排泄表にて個々の排泄パターンを把握しています。オムツの使用を減らす為に、必ず2時間以内に声かけや誘導を行い、便器に座ってもらうことで自立に向けた排泄支援を心がけています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その様に勤めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人で出来る方はその様にしている。	週2回の入浴を基本として、曜日や時間は特に決めずに利用者の体調や気分に合わせて無理強いすることなく、臨機応変の対応を心がけています。また、ゆず湯や菖蒲湯なども行い、季節感を感じてもらえるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担で生活の一部を協力していただき自分に張り合いを持って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度程度普段と違った場所や買い物食事を兼ねて個人的な外出日を設けている	全員での外出支援は難しい為、月に1回は個別や数名ずつの対応で食事や買い物、散歩に出かけるように支援しています。事業所の目の前に公園があり、玄関には車いす用のスロープを設置し、車椅子の方でも外気浴や散歩に行きやすい環境が整っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方にはその様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その様にいつでも可能にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや風呂場、個人の部屋がわかりやすいように、写真と名前を大きく掲示している。	リビングは明るく、ゆったりと過ごせる設計になっており、窓からは目の前にある公園を眺めることが出来るので、子供の声や遊んでる様子を見ながら過ごしたり、テレビを観ながら過ごす方など個々のペースで過ごしています。キッチンアイランド式になっており、利用者の様子を見ながら会話をして調理できる造りになっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常にその様な状態を予測した対応や空間にしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にその様な状態を予測した対応や空間にしている	備え付けとして、エアコン、照明、クローゼットはありますが、それ以外の物については、入居時に使い慣れた家具や調度品を持ってきてもらうように話しています。家具の配置については、利用者の歩行状態に配慮することで利用者が生活しやすい空間作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯や掃除がイヤになると認知症が進む傾向にあるので自分で出来るよう支援したり目安とした環境を心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム友愛

作成日

平成29年1月6日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	資格等の取得意識の向上	介護福祉士等の取得人員の増加	各資格取得への補助	平成30年3月31日

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。